

「職業実践専門課程等を通じて専修学校の質保証・向上の推進」事業
Ⅲ（ii）「職業実践専門課程」各認定要件等に関する先進的取組の推進

「柔道整復師養成分野に係わる第三者評価システムの構築」の概要

平成27年2月9日

特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構

理事 関口 正雄

(添付資料)

資料 1 柔道整復師養成分野の第三者評価基準イメージ

資料 2 柔道整復師第三者評価基準一覧

1. 事業への応募までの状況

- ① 平成21年度文部科学省 専修学校教育重点支援プラン事業
『産業界の支援を受けた専門学校評価者育成と評価制度モデルの研究』（私立専門学校等評価研究機構、以下 評価機構）
→職業分野別評価のモデルを示す
- ② 平成22年度文部科学省 産学連携による実践型人材育成事業－専門人材の基盤的教育推進プログラム
『鍼灸師・柔道整復師の育成プログラムを産学が連携して評価するモデル事業の実践』
→厚生労働省指定基準をミニマムスタンダードとし、さらに高度な専門技術基準を作成（資料2）
- ③ 平成24年（公財）柔道整復研修試験財団 福島統代表理事（*1）の提唱により同財団および柔道整復関連4団体（*1）と評価機構が、柔道整復師養成分野の専門学校の分野別第三者評価団体を設立し、第三者評価のシステムと評価基準を開発して第三者評価を行うことで合意した。
- ④ 平成26年表題の文部科学省「先進的取組」事業の趣旨に鑑み、評価機構が幹事団体として応募、7月採択された

2. 第三者評価システムと評価基準の特徴

（1）想定されるシステム

- ① 被評価者は、柔道整復養成施設で文部科学省職業実践専門課程の認定を受けた学科と学校、および認定申請を予定している学科と学校
- ② 評価団体は、上記 柔道整復4団体と評価機構が設立予定の柔道整復学校第三者評価団体を想定
- ③ 柔道整復師養成分野の専門分野別評価を核に、評価機構の機関別評価（文部科学省『学校評価ガイドライン』準拠）も同時かつ一体的に実施する
- ④ 上記1、①②の先行研究を生かしたシステム、基準とする
- ⑤ その他は、本事業システム部会で検討中

（2）評価基準

- ① 専門分野別評価基準項目と機関別評価項目に一旦分けて整理（資料1）
- ② 専門分野別評価としては、学習成果に関する基準項目を重視した
→認定実技審査における技能基準、国家試験における専門知識、先行研究（1. ②）で示された高度な知識（技術）基準。就職実績、国試合格率、ドロップアウト率等。（資料1,2）
- ③ 医学教育分野別評価基準における、基礎的水準（Must）と質的向上水準（Should）の2段階構成を取り入れた。また質的向上水準は、各学校が目標化することとした（資料1. 2）
- ④ 想定される第三者評価機関における第三者評価に対応し、専門分野別評価基準と機関別

評価基準を一体的に整理し一覧化した（資料2）

- ⑤ 養成機関である専門学校段階と業界におけるキャリア形成を連続的にとらえ、業界団体が実施している研修等も学校教育段階で可能な範囲で目標化することとした（資料1）
- ⑥ 内部質保証を大項目に加え、PDCAサイクルの成果を問うこととした（資料2）
- ⑦ 機関別評価項目については、専門学校および職業実践専門課程の現状に鑑み、項目を簡略化うえで、それぞれを評価することとした
 - 専門学校の自己点検・自己評価は十分な実施状況になっていない（平成23年度文科省調査では、実施率63%）
 - 職業実践専門課程において、内部質保証は緒に就いたばかりであり、有効性は不明。学校関係者評価委員会の運用においても、学校関係者評価委員側の主体性について改善が必要。
 - 教育活動の基盤である諸システムや事業計画・財務等についての第三者評価なしに、PDCAサイクルの状況のみを評価する、ということでは、とりわけ専門学校全体に厳しい視点をもつ高校関係者、保護者また広く社会の信頼を得るのは困難

以上

*1 福島 統 氏

東京慈恵会医科大学教育センター長、日本医学教育学会医学教育分野別評価基準策定委員

*2 柔道整復4団体

（公財）柔道整復研修試験財団

（公社）全国柔道整復学校協会

（公社）日本柔道整復師会

日本柔道整復接骨医学会

柔道整復師養成分野 第三者評価基準のイメージ

I 専門特化した基準

専門技術 (A) ※自己目標設定・成果を評価する項目

H22年度文部科学省事業「鍼灸師・柔道整復師の育成プログラムを産学が連携して評価するモデル事業の実践」における「要件1専門技術」に掲げる技術等の習得指導

●生涯学習の意欲を醸成する教育

先輩柔道整復師から聞く機会の付与、生涯学習プログラムへの在学中の参加などを通して意欲醸成指導

●特徴ある教育活動・学校運営等

理念・目的・育成人材像の実現のための特色ある取組み

専門技術 (B) / 知識 ※学習成果を評価する項目

- 認定実技審査における審査項目に対応した実技指導
柔道整復研修試験財団
- 柔道整復師国家試験合格に対応した指導

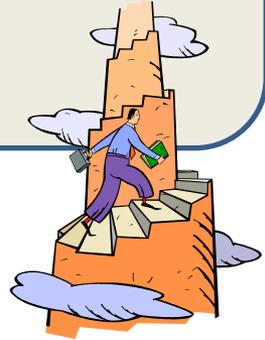
Should
質的向上
のための
基準

Must
基本的基準

柔道整復師関係団体の連携による
生涯学習によるキャリア形成を通じた柔道整復師の質向上

- 「卒後臨床研修における医療人講座」
柔道整復研修試験財団
- 「認定柔道整復師制度におけるキャリア形成の観点」
日本柔道整復接骨医学会
- 「生涯学習単位取得制度」
日本柔道整復師会

項目・基準の抽出・分類の
詳細は別紙参照



II 共通する基準

※ガイドライン準拠を基本

Must
基本的基準

● II 共通する基準-1 ※主に基準・要件適合性を評価する項目

II 学校運営

事業計画・運営組織・人事・制度・意思決定等

V 学生支援

中途退学・相談・保護者との連携等

VI 教育環境

実習・演習・防災・安全管理等

VII 学生募集

募集活動・選考・学納金金等

VIII 財務

IX 法令遵守

● II 共通する基準-2 ※専門性も含む基準 内容により自己目標の設定、成果、基準・要件適合を評価する項目

I 理念・目的・人材像

III 教育活動(目標設定・教育方法・成績評価
教員及び教員組織等)

☆ (3-9-16キャリア教育)

※IV学修成果(就職・資格・卒業生の評価)

V 学生支援 (5-21卒業生)

VI 教育環境 (6-22施設・設備)

X 社会貢献・地域貢献

柔道整復師養成分野における第三者評価基準一覧(素案Ver.1.6)

柔道整復師養成分野第三者評価基準の評価項目			評価の観点					
大項目	中項目	小項目 (評価の視点)	目標	基準	専門	質	成果	
教育理念・目的・育人人材像	理念・目的・育人人材像	理念・目的・育人人材像は定められているか		○				
		育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか			○			
		社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか			○			
学校運営	運営方針・事業計画	理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか		○				
	運営組織	学校運営組織を適切に整備しているか		○				
		人事・給与に関する制度を整備しているか		○				
	特色ある取組	学校運営について、特色ある取組を行っているか	○			○		
教育活動	目標の設定	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか		○				
		修業年限3年で柔道整復師国家試験を合格できるように目標設定されているか			○			
		業界等の人材ニーズに対応した特色ある達成目標を設定しているか(別記例示参照)	○				○	
	教育方法・評価等	柔道整復師国家試験受験に必要な教育課程を編成しているか			○			
		教育課程編成委員会を設置し、外部の意見を教育課程に反映しているか			○			
		キャリア教育を実施しているか			○			
		柔道整復師としての社会的責任を果たすうえで卒業後も継続した学習が必須であることを認識するための教育を行っているか(別記例示参照)	○				○	
		授業評価を実施しているか		○				
		教育方法について、特色ある取組を行っているか	○				○	
	成績評価・単位認定等	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか			○			
		学修成果発表会等で達成度を把握しているか			○			
	免許・資格取得の指導体制	柔道整復師国家試験及び認定実技審査のための指導体制はあるか			○			
その他の資格取得について、特色ある取組を行っているか		○					○	
教員・教員組織	資格・要件を備えた教員を確保しているか			○				
	企業等と連携し、教員の資質向上への取組を行っているか			○	○			
	教員組織について、特色ある取組を行っているか	○				○		
学修成果	免許・資格の取得率	免許・資格取得率の向上が図られているか		○			○	
		認定実技審査の合格実績は高い水準にあるか			○		○	
		柔道整復師国家試験の合格率は高い水準にあるか			○		○	
	就職率	就職率の向上が図られているか		○			○	
		就職の実績は高い水準にあるか			○		○	
卒業生社会的評価	社会的評価を受けた卒業生の活躍実績があるか			○		○		
特色ある取組	学修成果の把握について、特色ある取組を行っているか	○				○		
学生支援	学生生活	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか		○				
		学生の健康管理を行う体制を整備しているか		○				
		学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか		○				
		課外活動に対する支援体制を整備しているか		○				
	学生相談	学生相談に関する体制を整備しているか		○				
	中途退学への対応	退学率の低減が図られているか		○			○	
		退学率は低い水準にあるか			○		○	
	保護者との連携	保護者との連携体制を構築しているか		○				
卒業生・社会人	卒業生への支援体制を整備しているか			○				
	産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか			○				
	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか			○				
特色ある取組	学生支援について、特色ある取組を行っているか	○				○		
教育環境	施設・設備等	施設・設備は専修学校設置基準及び柔道整復師学校養成施設指定規則に定める基準に基づき適切に整備されているか		○	○			
	実習・演習・インターンシップ等	企業と連携して、実習・演習、インターンシップ等の実施体制を整備しているか			○			
	防災・安全管理	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか		○				
		学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか		○				
特色ある取組	教育環境の整備について、特色ある取組を行っているか	○				○		

柔道整復師養成分野第三者評価基準の評価項目			評価の観点				
大項目	中項目	小項目 (評価の視点)	目標	基準	専門	質	成果
学生の募集と受入れ	学生募集活動	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか		○			
	入学選考	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか		○			
		入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか		○			
	学納金	経費内容に対応し、学納金を算定しているか		○			
入学辞退者に対し授業料等について適正な取り扱いを行っているか			○				
	特色ある取組	学生の募集と受入れについて、特色ある取組を行っているか	○				○
財務	財務基盤	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか		○			
		学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか		○			
	予算・収支計画	予算及び執行計画に基づき適正に執行管理を行っているか		○			
	監査・財務情報の公開	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、財務情報を公開しているか		○			
	特色ある取組	財務運営について、特色ある取組を行っているか	○				○
内部質保証	関係法令、設置基準等の遵守	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか		○		○	
		職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか			○	○	
	学校評価	自己評価の実施体制を整備し、評価を行い、結果を公表しているか		○		○	
		学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行い、結果を公表しているか		○		○	
		学校評価結果を改善に繋げるシステムを確立しているか		○		○	
教育情報の公開	学校評価に基づく改善活動は成果を上げているか				○	○	
	教育情報の公開	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか		○		○	
社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献	学校の教育資源を活用した社会貢献、地域貢献等を行っているか			○		
	ボランティア活動	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか			○		
	特色ある取組	社会貢献・地域貢献について、特色ある取組を行っているか	○				○
教育目標として設定した専門技術 (例示)	教育目標として設定した専門技術 (例示)	1 柔道整復術:骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期措置法などの修得	○				○
		2 被覆包帯及び固定包帯術:巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹に対応できる包帯の技術習得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するかの研究および技術の習得	○				○
		3 テーピング技術:患部の運動制限・疼痛緩和・血行促進などの研究および技術の習得	○				○
		4 後療法:手技療法 軽擦法・強擦法・叩打法などを用いて自然治癒力を活性化させ損傷の早期回復を図る技術の習得。運動療法 全身運動療法と局所運動療法を併用し機能回復と増進を図る技術の習得。物理療法 電気・光・温熱・冷却・音波などの物理的エネルギーを使用して、生体機能の正常化および恒常性維持機能を高める研究および技術の習得	○				○
		5 鑑別技術(ボディナビゲーション体表解剖を含む):外見上の症状では判断できない症状を各種検査法で鑑別する技術の習得。臨床実習にて治療方針を決め、治療し、評価する技術の習得。	○				○
		6 医療面接:信頼関係の構築の仕方、主訴、現病歴の確認など	○				○
		7 リスク管理:フォルクマン拘縮などの後遺症へのリスク管理。整復・固定・後療法・自己管理などに対する指導管理	○				○
	生涯学習の意欲醸成に関する評価項目 (例示)	1 生涯学習の重要性を現場で活躍する柔道整復師などから聞く機会を設けているか	○				○
		2 卒後研修等の生涯学習プログラムに在学中から参加する機会を提供しているか	○				○
		3 「卒後臨床研修制度」をはじめとする生涯学習に対する意欲を醸成するための教育を体系的に行うよう努めているか	○				○

【評価の観点の説明】

目標	自己目標として、学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定しているか
基準	専修学校設置基準、柔道整復師学校養成施設指定規則に定める基準及び専門学校に必要とされる基本的な事項を満たしているか
専門	職業実践専門課程の認定要件及び専門分野に必要とされる基本的な事項を満たしているか
質	内部質保証への取組や手続きが整備され機能しているか
成果	認定課程が目的・目標として設定している学修成果等が達成できているか

【評価区分の色区分別説明】

Should	専門特化した基準・専門技術(A) (質的向上のための基準)
Must	〃 ・専門技術(B) (基本的基準となる項目)
Must	共通する基準-2 (専門性も含む基準)
Must	共通する基準-1 (基本的基準となる項目。評価研究機構の基準と同一基準)